

明けましておめでとうございます

第4回総会 避難のお母さんのお話で元気をもらいました

昨年12月18日(日)浦和市内「ときわ会館」で第4回総会をひらきました。年間活動の報告、計画、予算、役員を確認し、新しい年次にスタートしました(総会議事録は2、3めん)。総会は運営委員、会員のほか、一般の方にも参加いただくオープン形式で行いました。地元埼玉に避難した鈴木直子さんに参加をお願いし、聞いて考える「勉強会」をセット、被災から現在までの実情をうかがいました(お話の概要は4めん)。小さな規模ではありましたが熱心な雰囲気につつまれ、とても元気になる総会になりました。おいでいただいた皆さんに、心から感謝したいと思います。「どんなことがあっても二人の子どもを守る」「送り出してくれた姑との約束、破るわけにはいきません」と明るく話す鈴木直子さんでした。住宅支援打ち切りの大きな困難に突き当たる被災家族。こんなとき、こともあろう、子どもたちを受け入れていた学校で「早く帰れ」とばかりに「いじめ」が起こっていたことが明るみに出ました。支援の非力に打ちのめされそうになる私たちです。しかし、鈴木さんのお話を聞くうちに、逆に励まされ、被災者を孤立させない―「出会い・つながり・交流」をこころがけます―の新年次計画をひとつひとつ、やりとげようと心あらたにしました。



学習会(2/11)開催「広げよう、家族保養」

～被災者と支援者がともにきり拓く一歩～

と き：2017年2月11日(土・祝) 13時15分会場、13時30分開始

場 所：WithyYou さいたま(埼玉県男女共同参画推進センター視聴覚室/さいたま新都心駅)

お話し：早尾貴紀さん(東経大准教授「311受け入れ全国」共同代表)

吉田千亜さん(「ルポ 母子避難」の著者)

原発事故による放射性物質による汚染は、人を経済的な問題におとしめたり、家族や人とのつながりを壊したり、心身ともに長期にわたり被害を拡大させていきます。保養によって子どもたちとその家族を守る親子保養は、被災地への帰還や、また生活の場を奪われ避難を余儀なくされた方々の「とまり木」「いのちづな」として、ますます必要になっていると思われます。私たちは大人のできることをあきらめることなく続けていかななくてはなりません。放射能から子どもを守るために、子どもといっしょに気軽に〈保養〉に行けるように、もっと、たくさんの「カラッポのおうち」が必要です。放射能被災者の〈家族保養〉による「心身治療」、保養を続ける生活スタイルについてもっと考える必要があるのではないのでしょうか。被災者、支援者がともに考え、ともに切り拓く、はじめの一歩の学習会としたいと思います。

事故から6年が経過しようとする今、原発事故被災者支援の力がためられています。

☆例年、総会時におこなっていた学習会を別途開催。ご家族や友人をお誘いのうせぜひご参加ください。

第4回総会議事録

■ 活動報告(2015. 10.1-2016. 9.30)

◎一般報告

- ・ 第3回総会・記念講演を2015年12月13日 With You さいたまにて行いました。志田篤さん(NPO昭和横丁)、長谷川健一さん(ひだんれん共同代表)、吉田千亜さん(ジャーナリスト)によるパネルディスカッションを木野龍逸さん(ジャーナリスト)の進行でうかがいました。
- ・ 子どもたちとその家族による「家(おうち)」宿泊利用が行われています(家族保養4組19人。冬季1組4人、春季1組7人、夏季2組8人)。空き期間利用についても、会員家族、会員お友だち同士、数組の利用もつづいています。急病、天候急変等でキャンセルがあるなど、利用件数は減少しましたが、申し込み、問い合わせは増えています。
- ・ 放射能による被災者、避難者の実情をつたえる集会や裁判などに参加し、被災者支援活動をおこなっているボランティア団体などを訪ねて理解を深め、被災者との連携につとめました。
- ・ 保養・避難活動団体を応援する「311受け入れ全国」が開催する福島県、栃木県での相談会にブースを出して、冬、夏休み前に、被災家族と直接お話しする機会を持ちました。
- ・ 会員拡大につとめ、170名をこえました。会員のみならず外部の方々からも寄付のご協力いただきました。
- ・ 家屋、畑の管理について常駐管理を稲田安博さんにいただきました。これに伴う管理棟など環境改善支援については費用裏付けがはかれず次年度課題として見送りいたしました。
- ・ 会員と利用者と地域の支援者、理解者共同参加の森林体験会(ツリークライミング・カヤック)、里山体験会(田植え・稲刈り)「自然体験会」を補助活動として取り入れました(指導謝金等経費については「子どもゆめ基金」の助成金によって別途に費用執行しました)。
- ・ 7月から、キッズリフレッシュ21基金より助成金が支出されることになり、利用家族に対して交通費補助を出せるようになりました。

◎会計報告

第3年次決算書

収入の部				支出の部			
	予算額	決算額	予算差引		予算額	決算額	予算差引
繰越金	308,051	308,051	0	交通費補助	40,000	40,000	0
会費	100,000	124,000	24,000	修繕費	67,000	5,254	61,746
寄付金等	167,000	286,300	119,300	水光熱費	140,000	133,186	6,814
借入金	0	0	0	備品費	30,000	51,108	-21,108
雑収入	0	42	42	通信費事務費	60,000	75,311	-15,311
			0	会議費	70,000	76,937	-6,937
				活動費	100,000	38,580	61,420
				自動車維持費	20,000	0	20,000
				借入金返済	30,000	30,000	0
				予備費	18,051	0	18,051
	575,051	718,393	143,342		575,051	450,376	124,675

収入(718,393円) - 支出(450,376円) = 第4年次へ繰越し(268,017円)

◎会計監査報告

2016年11月22日、横浜市緑区、斎藤忠監事宅で帳票、預金通帳等を監査したところ正当に処理されていました。

監事 斎藤 忠 印 菅野 隆夫 印



■ 運営計画 (2016.10.1-2017.9.30)

◎活動計画(案)

被災者を孤立させない—帰還者、避難者、支援者の「出会い・つながり・交流」をこころがけます—

- ・ 埼玉、神奈川などの避難者との交流をいっそうつよめ、帰還者、避難者を問わず「おうち」の利用をとおした「出会い・つながり・交流」を支援します。
- ・ 被災者の意見を聞き、被災者とともに育てる「保養の家」運営のために、運営委員の増員をめざします（年次中、皆様の自薦・他薦による参加をぜひお願いいたします）。
- ・ 物置、管理棟の修繕を急ぎます（新年次も稲田安博さんに家屋・畑の常駐管理を継続していただきます）。交通費補助、外トイレの設置で、利用者、支援者ともに「おうち」での活動や利用をやすくします（キッズリフレッシュ 21 基金助成金により費用執行します）。
- ・ 被災者と支援者との「出会い・つながり・交流」のために森林・里山自然体験活動を続けます（子どもゆめ基金の助成申請は、体制が整わなかったため見送りました。会計は子ども被災者支援基金、WCRP 基金などに助成申請するなど、運営委員会で検討していただきながら別途に決めたいと思います）。
- ・ 被災現地の実情にあった「できること支援」（具体的には「ペットボトル」飲料水、お米等主食材募集と送付支援）を無理のない範囲で続けます。

◎会計予算(案)

第 4 年次予算書

収入の部			支出の部		
繰越金		268,017	交通費補助	管理等現地作業打切交通費	42,000
会費	100 人×1,000 円	100,000	修繕費	管理棟・物置修理	67,000
寄付金等	カンパ・寄付等	190,000	水光熱費		140,000
借入金		0	備品費		50,000
雑収入		0	通信費事務費	会報作成・発送等費用	70,000
			会議費	総会等費用	70,000
			活動費	保養相談・会員拡大等	100,000
			自動車維持費		10,000
			借入金返済		0
			予備費		9,017
		558,017			558,017

◎役員

会運営にあたる役員を、次の方をお願いします。

- ・ 相談役 杉本茂樹
- ・ 運営委員 杉村葉子、杉村長世、阿部京子、後藤エミ子、清水康之、鈴木稔、越野佳史、稲田安博、櫻井裕 須藤誠一（新）

（注）運営委員を交代します。松橋広和さんが退任されます。代わって須藤誠一さんが加わります。また、年次途中に増員があるときは運営委員会にはかります。その結果を次年次総会で報告承認をいただきます。

運営実務にあたる運営委員の事務分担内容等については、総会后、第 10 回（第 4 年次=16 年次第 1 回）運営委員会で協議・互選して決めます。

- ・ 監事 斉藤忠（横浜市緑区） 菅野隆夫（横浜市瀬谷区）



第4回総会での鈴木直子さん（いわき市から避難、ここカフェ@川越、ぼろろん主宰）のお話し

（司会 運営委員 鈴木さん）

*鈴木さんの持参された「カノンだより」DVDを見てからお話をうかがいました。以下は鈴木さんのお話の概要です。

—現在、実家があいているから使っているという人がいて一軒家に住まわせてもらっている。中1と小2の娘は今はずっかり川越っ子。避難後、夫の会社が再開したためいわきに戻ったので、母子避難を2年間続けた。夫が川越に通って来ていたが、その後、夫の就職が決まり家族で暮らせるようになった。事故直後、水が出ないので浄水場に並び水を運んだ。ガソリンスタンドにも長蛇の列ができた。私たちは水を汲み、近所の高齢者にも配った。行政の指示を待っていたら私達はたれ死にしたらどう。毎日2、3時間睡眠の中、ママ友と情報交換し、ドイツのシミュレーション映像やインターネットを見たり情報を一生懸命集めた。命の危険を感じ、家族や親戚に避難しようと言ったが、高齢の人は死ぬならここで死にたいと言う。15日の夕方に常磐道が通れるようになったと聞き避難開始。道路は半分落ちていたり陥没していたりでたいへん危険だったのに、残していく父母にももう会えないかもしれないと思うと悲しくて泣きながら前がよく見えない状態で車を運転した。八王子のいとこのうちで、シャワーを浴びて服を捨て半月くらいお世話になった。川越では近所の皆さんが温かい声をかけてくれた。でもディズニーランドでタイヤがパンクさせられたり車を傷つけられたりした話を聞いていたので、いわきナンバーをすぐ変えてもらった。子供を守るために気が張っていた。1年たち、吉田千亜さんから“被災した方、集まりませんか”という手紙をもらい「ここカフェ」被災者の交流をいっしょにはじめた。私達には地域から逃げた罪悪感があり、手



続きが色々わずらわしいが、福島に住民票を残している。そして、国から言わせれば勝手に避難した私達には支援が少ない。また一方で、先祖代々の土地を守り、家長制度が生きている土地柄なので簡単に避難はできない、また経済的な問題や不動産についての問題を抱える人もたくさんいる。

3年前から「ぼろろん」という自主避難者に特化した団体を作って活動している。毎月のように「初めて来ました」という人がいて、話せてよかったと言って帰る人を見て私達も有り難いと思う。避難者だからと下を向いているのじゃなく、人権を侵害されてる状態なのだから胸を張って抗議しなければと思う。

出来る人が出来る事をその場でやるという事で子供達もいっしょにがんばっている。最後に、震災の備蓄はお水、ラップ、ガソリン。逃げる時ガソリンがないと逃げられない。自分達家族でシミュレーションをして。財布の中に身近な人の連絡先を。—

★会場からは「罪悪感」について、カラッポのおうちの使い方についてなど質問がありました。貴重なお話をありがとうございました。

★大人の気持ち

相馬高校放送局創作演劇 いま伝えたいこと（仮）
などドキュメント上映と、顧問渡部義弘先生のお話を
思いかえします 第一回総会。創作演劇は津波、原
発事故後再開された学校。放射能、うつすな」なる
ネットの書き込みで女子高生が傷つき、その後、自殺。
直前の放課後、その引き金を同級の自分たち二人が引
いたのではないかと、罪悪感にとらわれ後悔するとい
う内容でした▼学校現場での「原発被災者いじめ」が
明るみにでて、文科副大臣が横浜市長を訪問しその実
態調査について話したとの報道を見ました。告発は既
に二〇一三年、相馬高生たちによって行われていたの
です。私たちは「いま伝えたいこと（仮）」上映中涙
が溢れるのをこらえられませんでした。高校生たちは
日本ジャーナリスト会議特別賞、NHK放送コンテス
ト優秀賞などを得たことでよく知られています▼高
校放送局の女子生徒が「ごどもの訴えを無視しないで
ください！」「いまある現状を忘れないでください」
と叫んでいたのを思い起こします。二人の高校生は、
級友の死を経験して、お互いが被災者同士でありなが
ら、そのことを互いに話したりたずねたりすることを
ためらってしまっていたことを話します。被災—思い
起こすだけでたまらなくなる互いを気づかうからだ
った：▼四年前のあの初心、わすれるなかれ。なんと
しても守る。子どもたちが自殺を考えるほど追いつめ
られてからでは遅い。気がついてからでは遅い。うる
さがられるのが為事（むじごと）。いま、ここで、なす
べきと思うこと、できることを行う！それが大人の本
分だと思います。（エヌ・エス）

みなさまの旧年中のご支援に心から感謝申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。（事務局）

長瀬やなせ「カラッポのおうちの会」事務局 ◆電話045-933-1792 杉村(Fax兼) ◆メール karapponouti@gmail.com

◆ホームページは「カラッポのおうち」で検索 ◆Face Bookコミュニティ「カラッポのおうち」もあります

◆郵便振り込み講座00250-9-136022 ◆ゆう貯口座10210-3511241 杉村葉子